

整備局企画部防災課より

企画部 防災対策官 中島



中島 防災対策官

防災エキスパートの皆様には、日頃から国土交通行政、特に防災行政にご理解・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

防災エキスパートの皆様には5月27日の安倍川連合水防演習・複合型災害防災実動訓練、7月25日の東南海地震の津波訓練への参加、また職員の防災意識の啓発対応能力のロールプレイング訓練時のコントローラ役、9月3日の総合防災訓練への参加等、多様な取組にご協力をいただきありがとうございます。

ここで、簡単に昨年の日本列島の災害を振り返りますと、年度当初は豪雨と低温、夏から秋にかけては風水害に悩まされ、中部地域においても昨年度の7月豪雨により長野県南部地域を中心に管内の天竜川上流での破堤等による甚大な被害が発生し、その対応にあたり、防災エキスパートの皆様には、大変お世話になり迅速な対応ができましたことを感謝申し上げます。

また、今年に入りましても3月15日に震度6強を観測した能登半島地震。4月15日には管内において、震度5強を観測した三重県中部地震。また7月14日から15日にかけて三重県、静岡県に災害をもたらした台風4号、その翌日には震度6強を観測した新潟県中越沖地震と各地で大規模な災害が発生しております。当地域では何時起きてもおかしくないと言われている東海地震を抱えており、その対策のため中部地方整備局では、昨年から複合型災害の訓練を実施しております。引き続き防災エキスパートの皆様には、複合型災害の訓練には積極的に参加して頂けるようお願いいたします。

次に、最近の防災関係の話題として、国土交通省平成20年度予算の概算要求の中に大規模災害への危機管理対応充実の制度創設として、大規模災害時に被害状況の早期把握や被災地の早期復旧を国土交通省を挙げて支援する「緊急災害対策派遣隊」通称TEC-FORCE（テックフォース）についてご紹介します。「緊急災害対策派遣隊」は、全国の整備局職員、国総研・土研等の技術専門家、資機材操作員（民間）等をあらかじめ登録しておき、大規模災害発生時に本省（災害対策本部）の指示で出動し、現地支援センターの設置・運営、ヘリコプター・踏査による所管施設の被災状況の緊急調査を、国が主体的に実施するとともに、地方公共団体と連携して必要な緊急応急対策を実施するものです。また、民間保有建設機械等の調達支援ネットワークの形成の整備も施策内容に組み込むことを検討しています。

最後に、防災業務に関して今後とも皆様方のご協力をお願い致します。

防災エキスパート活動報告

平成 19 年 4 月上旬から 8 月末までに行われた防災エキスパートの活動をご報告いたします。

◎防災エキスパート登録者について

発足時から増加傾向であった登録者数が昨年度に減少しましたが、今年度は新たに 33 名の方が登録されて増加し、8 月末現在で 560 名となりました。県別・専門分野別登録者集計表で見ると、新規登録者は愛知・岐阜・三重・静岡県で河川・道路・電気・営繕・事務の専門分野それぞれに登録されました。

また、今年度の登録書交付式は 6 月 29 日に行われ、事務局である(社)中部建設協会の大西理事長から、一人一人に登録書が手渡されました。



登録書交付式

県別・専門分野別登録者集計表（平成 19 年 8 月末現在）

部門名	県名					合計
	愛知	岐阜	三重	静岡	長野	
河川	44 (6)	51 (1)	24 (2)	43 (1)	23	185 (10)
道路	97 (4)	68 (3)	40 (2)	24 (1)	9	238 (10)
機械	2	2	2	1	0	7
電気	5	8 (1)	2	2 (1)	1	18 (2)
営繕	4 (1)	2	1	0	0	7 (1)
事務	37 (4)	38 (2)	17 (2)	9 (3)	4	105 (10)
合計	189 (15)	169 (6)	86 (6)	79 (6)	37	560 (33)

() 書は内数で H19 新規登録者数

◎安倍川連合水防演習・複合型災害防災実動訓練について

静岡県では、1707 年 10 月 28 日に M8.4 の宝永地震が発生し、建物の倒壊と大津波によって、2 万人の方が犠牲者となりました。その年の 12 月 15 日には富士山が噴火し、その降灰が翌年 8 月の大雨で土砂流となって、大規模な濁流被害が発生するという複合型災害の歴史があります。

それから 300 年、東海地震や富士山噴火が危惧されている静岡地区で、地震（津波）・出水・噴火という 3 つの災害を想定した全国初の複合型災害防災訓練が、安倍川河川敷において 5 月 27 日に実施されました。

実際の災害時での地域や関係機関との連携強化を目的として、防災機関や市民・NPO など 46 機関、約 6,500 名が参加され、また防災エキスパート及びその事務局からも 18 名が参加しました。

本会場では、2 名の防災エキスパートの方が、中部地方整備局からの依頼を受けて、水害情報を収集し、衛星携帯電話にて報告する訓練を行いました。

また、サテライト会場の黄瀬川会場では、7 名の防災エキスパートの方が、観覧者に対して訓練内容等の説明を行いました。

次に訓練状況の写真を掲載します。



出勤依頼による訓練

左：杉本徳治 右：山田耕一郎



観覧者への説明状況

関 勲

港湾啓開訓練



巡視艇による浸水者救出

救出・患者搬送訓練



埋没車両からの救出



倒壊家屋からの救出

排水訓練



排水ポンプ車による排水

堤防沈下亀裂修復訓練



大型土のうの設置



改良せき板工

◎その他の防災訓練等への参加について

◆ ロールプレイング方式による合同防災訓練及び演習

○ 伊那合同防災訓練（防災エキスパート6名 参加）

5月22日に出水期を控え伊那市域で風水害による大規模な洪水及び土砂災害を想定した訓練が天竜川上流河川事務所と伊那市の主催で実施されました。

○ 危機管理演習の実施（防災エキスパート4名 参加）

5月30日に中部技術事務所内で災害対処能力の育成・向上・拡充を図ることを目的として、危機管理演習が実施されました。

○ 南木曾合同防災訓練（防災エキスパート4名 参加）

6月30日に多治見砂防国道事務所、長野県、南木曾町を合わせた大規模土砂災害を想定した訓練が実施されました。



南木曾合同防災訓練

◆ 情報伝達訓練

○ 津波災害情報伝達訓練（防災エキスパート3名 参加）

7月25日に東南海地震による津波災害の被害軽減に向け、中部地方整備局をはじめとして、三重県の区域を管轄する多くの防災関係機関が参加し、相互に連携した的確な情報連絡網の構築や検証、ヘリ映像情報の共有など、三重県内における災害を想定した情報収集・伝達訓練が実施されました。

◎代表世話役会議について

8月9日に(社)中部建設協会 大会議室にて代表世話役会議を行いました。整備局からは平成19年9月3日(月)に実施される中部地方整備局の防災訓練内容について説明していただき、代表世話役の方々よりご意見等をいただきました。

◎防災エキスパート地区研修会について

防災エキスパート活動の最新情報提供等を目的として地区研修会が開催されました。整備局からは、安倍川連合水防演習・複合型災害防災実動訓練や新潟県中越沖地震の応援派遣について報告していただきました。また、事務局からは平成 18 年度の活動報告、平成 19 年度の活動計画の説明を行いました。

各地区の参加人数、実施日、講演内容は以下のとおりです。

地区	実施日	参加人数(名)
静岡県	7月20日(金)	51
愛知県	7月26日(木)	114
長野県	7月31日(火)	25
三重県	8月7日(火)	54
岐阜県	8月7日(火)	115
合計		359

【講演について】

●静岡県・愛知県・岐阜県地区研修会

演題：「地球温暖化への課題とハリケーン・カトリーナのその後」

講師：(社)中部建設協会 技師長 福田 晴耕

●長野県地区研修会

演題：「南信地方における降雨特性と長野県の大雨」

講師：長野地方気象台技術課気象情報官
佐藤 義之 様

●三重県地区研修会

演題：「津市における最近の災害事例」

講師：津市役所防災危機管理室次長 橋本 宏 様



長野県地区研修会



佐藤 義之 様



三重県地区研修会



橋本 宏 様



静岡県地区研修会



福田 技師長



愛知県地区研修会



岐阜県地区研修会

防災エキスパートの皆さまへ ～ 30分モニター募集のお知らせ ～

30分モニターとは、震度6弱以上の地震を観測した場合、発生直後30分以内に身の回りの被災状況を予め県毎に指定された整備局担当者へ報告していただきます。

8月末現在までに愛知県41名、岐阜県45名、三重県17名、静岡県30名、長野県11名の合計144名の方が市町村別に登録されております。

30分モニターを随時募集しております。登録される方は、事務局までお問い合わせください。

【報告内容】

- ◆ 報告者氏名
- ◆ 報告時刻 ○時○分
- ◆ 場所 ○○市○○町
- ◆ 揺れの状況 揺れかた、揺れた時間、余震
- ◆ 屋内の状況 人災の有無、家具の状況
- ◆ 屋外の状況 周りの建物、周りの建物施設、交通状況